

人面坂

明るくなったり暗くなったりを繰り返す不気味な地帯が人面坂。ということは、ここは「何が飛び出すかわからない」ワクワク地帯でもあるのだ。もののけたちが繰り出す仕掛けとともに、特撮スタジオさながらの美術が美しい。先行きに期待しつつ、ゆっくりと楽しんで欲しい。



おみやげ処 お化け屋



「開運！なんでも鑑定団」でおなじみの北原照久氏によるミュージアムショップ。店内には秘蔵の古書コレクションが並ぶほか、鬼太郎ファミリーをはじめとするチャーム的な「もののけ」グッズを販売している。まだ先は長いってことでひと休みしてもいいし、すべてを体験した後で立ち寄るのもいいね。

ドクロお香たて
なぜかお香グッズが充実。なかでもこれは不気味さたっぷりのお香たて（1200円）



ドクロの貯金箱
かなり大きめのドクロ貯金箱。ほとんどオプジェだけど顔が怖いから思わず貯金しちゃうかも（2500円）



ひとつ目ボールペン
目玉がギョロリのボールペンは、おみやげにあげたらウケそう（450円）



ようかいけむし
指につけてこすると痛がでてくる懐かしいカード。いかにも駄菓子屋風のキッシュなデザインがたまらない（500円）

鬼太郎パンク人形
鬼太郎、目玉おやじ、ねずみ男など人気キャラクターの貯金箱。（600円）

た ま に イ ン タ ビ ュ ー



（左から）
ドラムの石川浩司さん、
ボーカルの知久寿焼さん、
ギターの滝本晃司さん。

もののけ けけけ もののけ けけけ ここはものけ番外地ーオープン告知のテレビCMでも使われた、もののけ番外地のテーマソング。ここはもののけ番外地」を作り、歌うのが、たま。ふんわりかいていてどこか懐かしい彼らの世界は、ナンジャタウンの雰囲気ピッタリだ。

この曲が生まれたのは偶然から。ナンジャタウンに遊びに来ていたたまの面々が、今度もののけ番外地という新テーマタウンができるって聞いて興味を持ったのがきっかけだった。ちよと、もののけ番外地」のメインキャラクターの名が「もののけたま」だったこともあり、話がトントン進んだのだ。ちよと、ちよと、ちよと、遊べるみんなを迎える楽しい感じがミックスされた曲になってるよね、というわけで、やってきた彼らに、「もののけ番外地」の印象を尋ねてみた。

「たま」とナンジャタウンの出会いから テーマ曲「ここはもののけ番外地」誕生

「なんか、ぼくらの子供時代に近い感じがする。ぼくたちはみんな郊外の町で生まれ育ったんですが、古い家の作りとかの微妙な雰囲気がよく似てるんですよ」（石川浩司）

「すごい仕掛けはないけど、貼り紙とかのぞき穴とかの細かい仕掛けが楽しいですね。今度は何がでくるんだらうって。ここは、あつねもあかしくないんだけど、現実には存在しない町。その、ズレ加減が好き。曲のイメージとも合ってますねえ」（知久寿焼）

「他の人が気づかず通り過ぎるところにも、じつは仕掛けがある。それを見つけた楽しみがあるよね」（滝本晃司）

ナンジャタウンならではのディテールへのこだわりを、たまも気に入ったみたいだ。3人とも、これまでにも心霊現象などの不思議な体験をしているので、「もののけ」というテーマはほくちたちにピッタリらしい。

「イギリスでレコーディングしたときには、ぼくの娘が、誰も部屋にいないのに、「お兄ちゃんお姉ちゃんがいっぱいいる」と言い出したらしい」

「ツアーでは会場の廊下の明かりが、消しても消してもついているとか」

そんなときも、3人は「ま、そういうこともあるな」と妙にナットクしてしまうという。

違う世界や知らないものと接触するのは、こわいことじゃなくてワクワクすること。そんな思いで作られた「ここはもののけ番外地」。印象的なメロディは一度聴いたら忘れられないこと間違いなし。早く覚えて、一緒に口ずさまうよ。

袋小路小学校



人気のない学校に、一人だけ用務員さんがいる。勿論ただの人間じゃない。用もないのに扉をあけると……、「ヒエー！」ってことになっちゃうんだなあ。



何かありそな百葉箱。「ぼくに触って」と訴える声につられてドクロに手を触れると……。

人面岩

ボタン押しのおいゲームでハズさないようにボタンを選ぶ、ボタンを押す度に発する奇声。そして最後は……



リアンを待ち受けるアイテムが大小ありませて、なんと一ももある。驚いたり怖かったり、かと思えば笑えたり微笑ましかったり……。

これは何だろう、どんな意味があるのかなって思うものを探して歩き、できるだけ積極的に「もののけ復活祭」に参加して行って欲しい。ここにいる間は時間を忘れて、もののけたちの世界へタイムトリップ。リアルであつねおとろしい造形から貼り紙や落書き、看板など「福袋七丁目商店街」にも負けない昭和30年代テイストまで、たっぷり味わってしまおうよ。

ドキッとしたあと友だちと笑つてもよし、そうぞつカットブルなら驚いた彼女が思わず抱きついてくるかもらしいぞ。

「さ、呼吸を整えたらつきなる難関。薄暗い人面坂が待っている。こくがつつの通り道のようにそうじゃないから、気を付けて左右を確認しながら歩いていこう」

この通りはいつてみれば「もののけ復活祭」を祝う彼らなりの歓迎ゾーン。皆さんウェルカム！ といつところなんだけど、なにしろ相手はもののけたち。歓迎の仕方はこちらも彼らの流儀だ。

楽しく遊ぶコツは、先を急がないこと。間違っても走り抜けたりはしてはならない。なぜなら「もののけ番外地」には数々のびっくりアイテムが、まるでゲームの「隠れキャラ」のように仕掛けられているからだ。

たとえばこの人面坂にしても、「羽目玉」が宙を舞い、光るデンチュウ虫の目に見つめられ、ときどき空を飛ぶ亡霊たちが、花火となって炸裂。壁にはさまざまなもののけが浮かび上がっては消えるなど、目につくものだけ見ていてもかなり不気味でスリリング。もののけたちがワジャウジャ動きまわっている気配がわかる。

「ただ、楽しみ尽くすためには、ん？ 何かへんだな」と思ったところを逃さず触ったり開いたりしてみること。そうすればするほど、どんどん楽しみがひろがってゆく仕組みになっているのだ。そう、ここにはフェスタ

「三つ寺のショーを見終わったら、少し雰囲気にも慣れてきた。ここは、いたすらにフェスタリアンをこわがらせるのが目的じゃなくて、こわいんだけどおもしろい町のように。そりゃあ、町を支配してしまったもののけたちは、暗がりの中に身を隠して、訪れた人をびくりさせてやるって待ちかまえている。だけど、そのやり方にはどこか愛嬌があって、本当は人間たちと仲良くしたいようにも思えるのだ」

おみやげ処の「お化け屋」を通り過ぎると、奥に古ぼけた学校が、手洗いの蛇口、ガラスのドア、いわくありげな用務員室……。いかにも「霊が潜んでいそうな場所」に、何も無いわけがない。いや、「ノワース」の面々も、何かあるとわかっていながら、見事に引かかっています。